

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2001-197905
(43)Date of publication of application : 24.07.2001

(51)Int.Cl.	A43B 23/02
	A43B 5/04
	A43C 1/06
	A43C 7/08
	A43C 11/12

(21)Application number : 2000-375808 (71)Applicant : SALOMON SA

(22)Date of filing : 11.12.2000 (72)Inventor : PIERRE ERIC
DANEZIN JEAN BRUNO
AZAM GUY

(30)Priority

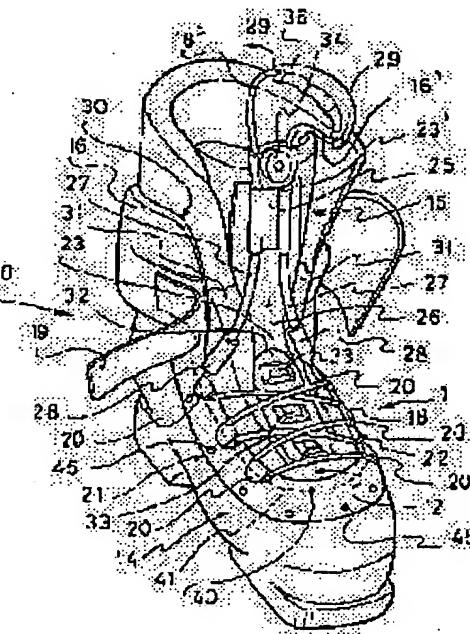
Priority number : 1999 9916846 Priority date : 28.12.1999 Priority country : FR

(54) BOOT TYPE SHOE HAVING A STRING FASTENER

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a string fastener of a boot type shoe capable of fitting the vamp of the shoe to user's toe and instep.

SOLUTION: A fastener 1 using a string 18 is included in the lower part 14 surrounding a foot. The string member 18' of the string is fitted to adjust the foot alternately crosses through changing means 20 of direction provided at both sides 21, 22 of the edge of the shoe body 10. The string member 18' of the string 18 is directed so as to converge from the instep section 13 to the upper part 23' of a small tongue member 23 provided with a double tunnel for guidance through two semi-flexible sheath members 27. The fastener 1 for the shoe can be controlled so as to keep a bending fold part 26 free and tighten it from the edge 30 of the upper part 16 of the shoe body 10.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision
of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2001-197905
(P2001-197905A)

(43)公開日 平成13年7月24日 (2001.7.24)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	マークコード(参考)
A 4 3 B 23/02	1 0 4	A 4 3 B 23/02	1 0 4
			A
5/04		5/04	K
A 4 3 C 1/06		A 4 3 C 1/06	
7/08		7/08	

審査請求 未請求 請求項の数11 O L (全 7 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 特願2000-375808(P2000-375808)
 (22)出願日 平成12年12月11日 (2000.12.11)
 (31)優先権主張番号 9916846
 (32)優先日 平成11年12月28日 (1999.12.28)
 (33)優先権主張国 フランス (FR)

(71)出願人 390023515
 サロモン エス.エー.
 SALOMON SOCIETE ANONYME
 フランス国 74370 メッツ-テッシイ
 リュディ ラ ラボワール (番地なし)
 (72)発明者 エリック ピエール
 フランス国. 74000 アネシー, イモーブ
 ル ランナブルナ, プロムナード ルイ
 ラシュナル 4
 (74)代理人 100064447
 弁理士 岡部 正夫 (外11名)

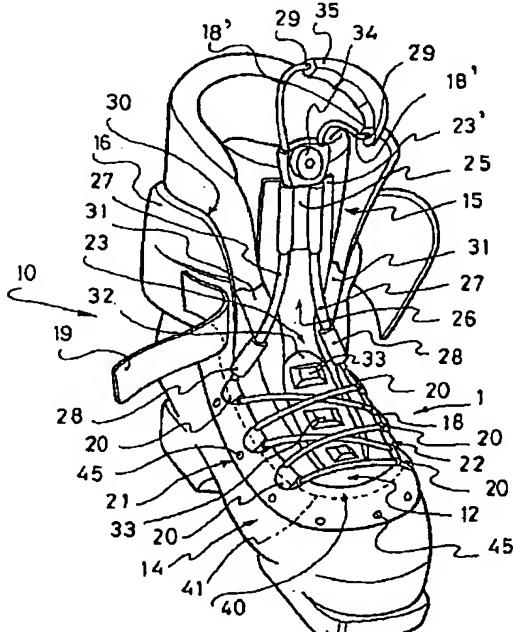
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 紐式緊締具を有する高胴型の靴

(57)【要約】 (修正有)

【課題】 高胴部を有する靴のような履装製品に関し、使用者の爪先部と足甲部に対して靴の前部分をぴったり合わせるための紐式緊締具の提供。

【解決手段】 足部を取り囲む低部分14上に、紐部材18を用いる緊締具1を含み、この紐部材の線条部分18'は、足部に対して調節を行うためにある、靴胴部10の縁部の両側21、22に設けた方向転換手段20により、かわるがわる交差する構成の高胴型の靴に関する。紐部材18の線条部分18'が、足甲部13の区域から、半可撓性を有する2の鞘部材27を介して、案内用の二重トンネルを備えた小舌状部材23の上部分23'まで、収斂するように方向付けられている。また、この靴の緊締具1は屈曲襞部26の区域を自由な状態に保ち、かつ靴胴部10の上部分16の縁部30から緊締を行うよう制御できる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 足部を取り囲む低部分(14)上に、紐式緊締具(1)を含み、前記紐部材(18)の線条部分(18')が、足部に合わせるために靴胴部(10)の縁部(21、22)の両側で、また足前部から足甲部(13)まで、かつ前方開口部によって画定される前記両縁部(21、22)間に延在する小舌状部材を覆うことにより、方向転換部材(20)によって代わる代わる交差される高胴型の靴において、前記線条部分(18')は、靴の長手方向軸に沿って配向された案内用の硬質二重トンネル(25)まで収斂するようにして方向づけられ、かつ該線条部分は、屈曲部(26)を越えた上部分に小舌状部材(23)を備えていること、および前記案内用の二重トンネル(25)と前記小舌状部材(23)とが上方へ向けて、前記紐部材(18)の線条部分(18')の自由端部(29)が、脚底部(15)を保持するためにある靴胴部(10)の上部分を越えるよう寸法取りされていることを特徴とする高胴型の靴。

【請求項2】 脚底部(15)を保持するための前記靴胴部(10)の上部分(16)が、足部を取り囲むとともに、案内用の二重トンネル部(25)を備えた小舌状部材(23)を覆うことによって作用する緊締具(19)と協働することを特徴とする請求項1による高胴型の靴。

【請求項3】 脚底部(15)を保持するための靴胴部(10)の上部分(16)が、足部を取り囲むとともに、案内用の二重トンネル(25)を備えた前記小舌状部材(23)を覆うことによって作用する緊締具(19)と協働する靴胴部(10)の低部分(14)上に取り付けられることを特徴とする請求項1による高胴型の靴。

【請求項4】 前記小舌状部材(23)が密閉手段(31)を介して靴胴部(10)の両縁部(21、22)に接続されることを特徴とする請求項1、2または3による高胴型の靴。

【請求項5】 前記小舌状部材(23)が、紐部材(18)の線条部分(18')によって加えられる押圧力を、より広い面積にわたって分散させるための少なくとも1の快適性付与部材(32)を備えることを特徴とする請求項1、2、3または4による高胴型の靴。

【請求項6】 前記紐部材(18)の線条部分(18')が、半可撓性を有し、かつ変形不能な2の管状鞘部材(27)をその長さ方向に貫通しており、前記管状鞘部材は、各々、調節のために前記靴胴部(10)の両縁部(21、22)上で、足甲部(13)の箇所に位置する最後の方向転換部材(20)と該鞘部材がもたれ掛かる前記案内用の二重トンネル(25)との間に介装されることを特徴とする請求項1による高胴型の靴。

【請求項7】 前記小舌状部材(23)と、半可撓性を

有する鞘部材(27)と、案内用の二重トンネル(25)と、紐部材(18)の線条部分(18')の方向転換部材(20)とが、U字形をした1の部材から発出している可撓性を有するウイング部(40)上に取り付けられ、前記U字形をした部材は足部にぴったり合致するようにするため靴胴部(10)の両縁部(21、22)と少なくとも部分的に置き換えられるものであり、前記靴胴部(10)の低部分(14)はU字形をした部材に適合するよう、足の上部を覆う前方開口部(41)を有して製作されることを特徴とする請求項6による高胴型の靴。

【請求項8】 前記方向転換部材(20)が可撓性を有するウイング部(40)上に取付・固定されることを特徴とする請求項7による高胴型の靴。

【請求項9】 前記方向転換部材(20)が靴胴部(10)の両縁部(21、22)上に直接固定されることを特徴とする請求項1ないし6のいずれか1による高胴型の靴。

【請求項10】 前記紐部材(18)の線条部分(18')の端部(29)が、留め部材(34)を用いて繋留されることを特徴とする請求項1ないし9のいずれか1による高胴型の靴。

【請求項11】 前記紐部材(18)の線条部分(18')の端部(29)が、操作用の把手を介して互いに接続されることを特徴とする請求項10による高胴型の靴。

【発明の詳細な説明】

【0001】 本発明は、高胴部を有する靴のような履装製品に関し、この履装製品は使用者の爪先部と足甲部に對して靴の前部分をぴったり合わせるための紐式緊締具を含む。

【0002】 ドイツ特許第1893010号、イタリー特許第19700/83号、フランス特許第1568397号、および欧州特許第629793号各明細書に記載の靴のようなこの種の履装製品は、あるいは結び目による古典的なやり方で、あるいは留め部材または引張レバーを用いて閉鎖される紐式緊締具を有する。その上、場合によって、締めつけを個々の状況に応じていろいろ細かく特化したいと言う要求に応じて、これらの緊締具は、イタリー特許第19700/83号ならびにフランス特許第1568397号各明細書に記載の靴のように靴胴部を使用者の足部と脚底部とに対して同時にぴったりと合わせるか、あるいは、ドイツ特許第1893010号および欧州特許出願第629793号各明細書に記載の靴におけるように、足部に対してのみ靴胴部をぴったり合わせるようになっている。これら後の2例においては、脚底部用の特殊な補助緊締具が案出されている。紐式緊締具(すなわち、ケーブル)を用いるこの別の方程式は、使用者の足部に対する履装容積を比較的良好に調節できるようにする。それに対して、これら各種の方式

では、比較的大きな引張応力を該紐部材の線条部分に及ぼして足甲部に対する効果的な締めつけを得るようにする必要がある。実際、該線条部分が鳩目手段により靴に対して横断方向に交互に交差するのに対し、該線条部分の自由端部において行われる引張作用は靴の長手方向に向けられる。その結果、鳩目（とりわけ、足甲部に位置する鳩目）に加わる摩擦が非常に高くなり、足部に対して靴胴部の縁部を接近させるために乗り上がる必要となる。もちろん、摩擦は案内部材の箇所、ならびに欧州特許出願第629793号およびイタリー特許第19700/83号各明細書に記載の靴における場合のように、停止手段を用いるときには、留め部材内で紐部材の線条部分の案内兼方向転換部材の箇所に生じる。

【0003】フランス特許第1568397号明細書に記載の靴の例において、上述したような摩擦ならびに発生する引張応力の問題は、引張レバーによって引っ張られる靴に覆われた单一のケーブルを用いる「ボウデン（Bowden）式」と呼ばれる緊縛システムによって実際に解決される。しかしながら、このような緊縛システムは、靴を固定するため、あるいはケーブルを固定するために数多くの剛直な部品を使用する必要があるか、あるいは使用者の脚低部に対応する区域に位置する靴胴部のラップの一方上に引張レバーを取り付ける必要がある、という欠点を有する。更に、教示されたこの「ボウデン式」の緊縛システムは、3点のみで足部に対する調節を行うために靴胴部の縁部を連結する。したがって、爪先部、足甲部、および脚低部間に良好な緊締力の配分を確実に行うことができない。また更に、足部または脚低部のみを解放する必要がある場合には、この緊縛システムは不適当であることが分かる。なぜなら、靴全体を緩めることになるからである。もちろん、この欠点はイタリー特許第19700/83号による靴にも存在する。その理由は、交差する紐締め部が爪先部から脚底部まで連続して延在するからである。

【0004】最後に、あらゆる種類の靴、および脚低部まで立ち上がっている交差した紐締め部を含むその他の履装製品に共通する一つの欠点は、靴の着脱のために屈曲部の区域内に足部を確実に配置することが困難であるということである。事実、このような靴においては、常に、少なくとも足甲部まで、手で紐部材の線条部分を緩める必要がある。この欠点は、欧州特許第629793号明細書で教示されているように、足部と脚低部との間に2の別個の緊縛システムを使用するという、異なる緊縛方式を備えた靴の場合には生じない。これに対して、紐部材の線条部分の取付箇所が屈曲部に位置する（とりわけ、留め部材が問題となる）場合には、別の欠点が生じる。実際、この配置構成においては、該取付は、足部を取り囲む靴胴部に比べて、脚低部を取り囲む靴胴部の部分の屈曲を妨げる。

【0005】本発明は、紐式緊締具を備えた靴、および「シェル型」と呼ばれる靴に用いられる内靴（インナーブーツ）をも含めて、各種の靴およびその他の履装製品における、これらの諸欠点を取り除くことを提案する。

【0006】この目的を達成するために、足部を取り囲む低部分上に紐式緊締具を含む、本発明の高胴型の靴は、足部に対してきっちりと適合するように靴胴部の縁部の両側で、また足の爪先部から足甲部まで、かつ靴胴部の前方開口部によって画定される上記縁部間に延在する小舌状部材を覆うことにより、靴の長手方向軸に配向された剛直な案内用の二重トンネルまで収斂するように方向づけられ、かつ該二重トンネルは屈曲部を越えるその上部分に小舌状部材を備え、紐部材の線条部分が方向転換手段によって交互に交差し、該紐部材の線条部分は該トンネルの間に取りつけられるのに先立って該トンネルを横断するように構成されることを特徴とする。

【0007】このように使用すると、該紐式緊締具は屈曲部の箇所に交差した紐部材の線条部分を最早有せず、かつ該線条部分が収斂し、次いで靴の長手方向軸に沿って二重のトンネル内を案内されることにより、該線条部分を取り付けるに先立って、該線条部分は、靴の使用者がそれらの自由端部に対して行う引っ張り作用の方向と同一の方向に現れる。

【0008】該線条部分の緊締に際して、小舌状部材の上部分が変形しないように、それら線条部分を半可撓性で非変形性の2本の管状靴部材内にその長さ方向に挿入通過させる。なお、これら管状靴部材は、各々、調節のために靴胴部の縁部の一方で、足甲部に位置する最終の方向転換部材と該靴部材が支承される案内用の二重トンネルとの間に介装される。このようにして、これらの靴部材は「Bowden式」緊縛システムと同じやり方で線条部分を引張可能にするとともに、小舌状部材を修正位置に維持可能にし、該小舌状部材の一部分に紐部材の線条部分を極めて容易に到達できるようにする。

【0009】一構造態様によれば、これら案内用の二重トンネルと、小舌状部材と、半可撓な靴部材は、該紐部材の線条部分の自由端部が脚低部を保持するためにある靴胴部の上部分を越えるような高さに寸法取りされている。

【0010】靴胴部のこの上部分は、足部を取り囲む靴胴部の低部分と一体部材として作られるのが有利であるが、また別に該靴胴部に取り付けてもよい。なお、上述した2の構成態様の場合において、足部に作用する緊締具に対する補助的な緊締具を脚低部保持のため特定的に用いてもよいことを理解しておきたい。脚低部用のこの緊締具は、半可撓な靴部材と案内用の二重トンネルを備えた小舌状部材を覆うことによって、靴胴部の上部分に作用する。該半可撓な管状靴部材がその断面方向において実際に変形不能であることを考慮に入れると、この配

置構成は足部の緊締に対して何ら障害を及ぼすものではないし、また全く影響はない。実際、紐部材の線条部分は靴部材の内部で自由状態にある。その結果として、脚低部の締めつけを変えることなしに、足部を自発的に緩めることができる。その逆もまた可能である。

【0011】有利な構造の幾つかの詳細によると、小舌状部材は、柔軟な薄膜あるいは密閉用の蛇腹（襠）のような少なくとも1の密閉手段を介して足部に対し該小舌状部材をぴったりと合わせるように接近させるため、靴胴部の縁部に接続される。また、この小舌状部材は、紐部材の線条部分が該小舌状部材に及ぼす押圧力をより広い表面にわたって分散させるための少なくとも1の快適性付与部材を備えている。この快適性付与部材は、例えば、小舌状部材および／または、例えば微小細胞構造材からなるクッション部材に付け加えられる比較的硬質な、または半可撓な板部材である。

【0012】好ましい構造の一例としては、先に定義したような足部緊締用の組立体ではあるが、U字形を形成する部材から発出している可撓性を有する翼部上に取り付けられる、足部緊締用の組立体を実現することにある。このU字形部材は、次いで、靴胴部の低部分に取り付けられる。そのとき、この靴は足の上部を覆うとともに、これら柔軟な翼部に適合する前部上方開口部を設けて製作される。これらの翼部は、もちろん、該翼部相互の接近が紐式緊締具により行われるよう少なくとも足の上部を（更には、側面を部分的に）覆うような寸法取りとなっており、該緊締具は調節のため靴胴部の両縁部に直接連結される方向転換部材に作用して、靴の履装容積を使用者の足の大きさに良く適合させるようになる。実際、これらの可撓性を有する翼部は、緊締用組立体の取付用支持部の働きをするとともに、靴の密閉性に関与する。この構造例において、小舌状部材の密閉手段は、靴胴部の両縁部の代わりに、これら可撓性を有する翼部に連結してもよいことはもちろんである。

【0013】紐部材の線条部分を、案内用の二重トンネルの出口で容易に締めつけたり、また取り付けたりできるようにするため、この二重トンネルの離隔に合わせた留め部材に2の自由な線条部分を通し、かつこれら2の自由な線条部分の端部を操作用把手を介して両者間で連結する。

【0014】本発明は、高胴型の靴に応用される一実施態様を、例として示す添付の図面を参照して、以下の記載を読むことにより、更に良く理解されよう。

【0015】図1および図2に示す靴は靴胴部10を有し、この靴胴部の低部分14は足部を取り囲み、かつ、その上部分16は脚低部15を取り囲む。この靴は、紐式緊締具1を用いて、足部上で（より詳しく言うと、足前部12に対応する区域から足甲部13の区域まで）閉じられ、また別個の緊締具19を用いて脚低部に対して閉じられる。

【0016】一つの基本的な特徴によれば、紐部材18の2本の線条部分18'は、足甲部13の箇所まで該靴胴部10の両縁部の一方21から他方22に設けた方向変換部材20によりかわるがわる交差し、かつ靴の中央部でほぼその長手方向軸に配向された小舌状部材を覆っている。次いで、該線条部分は足甲部13および屈曲襞部26を越えて、該小舌状部材23の上部分23'へ向けて該線条部分が横断する1の案内用の二重トンネル25まで収斂するように導かれる。この案内用の二重トンネル25は小舌状部材23のほぼ中央に位置するとともに、靴の長手方向軸に沿って配向される。このようにして、該紐部材18の線条部分18'の道筋は、屈曲襞部26の区域を完全に自由な状態にする足甲部13の箇所から、全体として逆V字状の軌道を形成する。もちろん、緊締手段（例えば、ベルト等）を屈曲襞部26のこの区域上に、また紐部材18の線条部分18'上に重ね合わせて使用して、必要な場合には、使用者の足の踵部を該踵部に嵌まり込む靴胴部10の低部分14の方向に強力な方向転換を確保するようにしてもよい。

【0017】紐部材18の線条部分18'を逆V字状に配列するのに加えて、半可撓性を有し、かつ変形不能な2本の管状靴部材27各々を、足甲部13の箇所に位置する最後の方向変換部材20と該靴部材が支承する案内用の二重トンネル25の間にその長さ方向に介装する。図示したこの構成例において、靴部材27は、実際に、足甲部13の箇所に位置する最後の方向転換部材20へ向けて、靴胴部10の低部分14に固定されるブッシュ28に留められる。このように構成した紐式緊締具1はボウデン（Bowden）式緊締具として機能する。なぜなら、案内用の二重トンネル25の出口箇所にある線条部分18'の端部29に掛かる引張力は、足甲部13の上部に延在する鞘で覆われた紐部材18の軌道全体にわたって効力を及ぼさないままだからである。

【0018】その上、やはり、該紐部材18の線条部分18'が内部で自在に滑動する靴部材27によって得られる保護により、靴胴部10の上部分16の緊縛および／または弛緩が該緊締具1に対しては全く影響を及ぼさない。とりわけ、最後の線条部分を、脚低部15の保持を確実にする緊締具19が存在する引張状態とは無関係に、緩めたり、および／または、引き締めたりすることができる。

【0019】更に、靴部材27が半可撓性を有するため、小舌状部材23は紐部材18の線条部分18'の端部29を極めて容易に捕縛する矯正位置に一定に保たれる。もちろん、小舌状部材23と、靴部材27と、案内用の二重トンネル25とは、該紐部材18の線条部分18'の端部29が靴胴部10の上部分16の縁部30を越えるように、上方へ向けて寸法取りするのが大変有利である。

【0020】良好な密閉性を確保するために、該小舌状

7
部材23は柔軟な薄膜31を介して該小舌状部材に隣接する靴胴部10の両縁部21、22に連結しておく。有利な構成例によれば、細長い柔軟な板部材から成る快適性付与部材32が該小舌状部材23上に付け加えられて、足甲部13の箇所で足前部12の小舌状部材上に延在する。このようにして、紐部材18の線条部分18'が小舌状部材23に及ぼす押圧力は、線条部分18'の箇所で、かつ該線条部分に沿って局在する代わりに、該快適性付与部材32の表面上で分散される。

【0021】補足的に、複数個の隆起部（ボス）33が、方向転換手段に対応して、互いに間隔を置いて該快適性付与部材32上に設けられる。このようにして、紐部材18の線条部分18'は隣接する隆起部33の間で交差する。その場合、該隆起部はその高さにより、例えば角張った物体など、外部からの衝撃に対して該線条部分を保護するとともに、紐部材18に対する雪の浸食作用を最小限に食い止める。

【0022】案内用の二重トンネル25の出口に紐部材18の線条部分18'を取り付けるための有利な解決方法は、取付手段34として上記二重トンネル25の離隔に適したブロック材（留め部材）を用い、かつ補助的に、把手などの操作部材35を介して該線条部分18'の端部を互いに接続することである。このようにして、線条部分18'に対する引張操作は非常に容易となり、紐部材18の引張下にある固定は紐の長さを失うことなしに行われる。

【0023】もちろん、引張レバーあるいは紐部材の捕捉具等、他の取付手段34を用いてもよい。

【0024】図3で更に明らかに、格別に有利な構成様によれば、紐部材18を用いた緊締具1は、靴胴部10の下方部分14に取付・固定されてU字形を成す部材から発出している柔軟な翼部（ウイング）40を含む組立体の一部分を成す。従って、この組立体は、足部の締めつけ作用に関与する全ての部材を含む。すなわち、以下のような部材である：

- a) 小舌状部材23；
- b) ブッシュ28および二重トンネル25を備えた靴部材27；
- c) 紐部材18の取付手段34および操作用把手35；
- d) 紐部材18および方向転換部材20；
- e) 密閉手段31；
- f) 場合により、靴胴部10の両縁部21、22と少なくとも部分的に置き換えられる可撓性を有する翼部（ウイング）40。

【0025】この場合、靴胴部10の低部分14は、足の上部を切り込む小舌状部材23についてよりもより広く切り込まれた前方開口部41を有して作られる。このような構成部材から成る緊締用組立体は、リベット等の手段45あるいはまたボルト、溶接、接着、等々の手段45によって靴胴部10の低部分14に固定される。

10 【0026】これら諸手段45はまた、足に合わせて調節を行うための、靴胴部10の両縁部21、22に直接方向転換部材20を固定する働きをもするのが好ましい。この目的のために、該方向転換部材20は、所望の緊締効果に応じて、および／または、可撓性を有する翼部40の寸法に応じて、或る程度の長さを有する固定用脚部20'を設けて製作してもよい。このようにして、該緊締装置1に加わる締めつけ応力は、常に、主として両縁部21、22で反復される。

【0027】もちろん、一変形態様によれば、該方向転換部材20は、可撓性を有する翼部（ウイング）40を画定するU字形を成す部材上に取付・固定してもよい。

【0028】更に、図示のない別の構成態様によれば、靴は、緊締具1、紐部材18、および小舌状部材23を備えた内靴（インナー・ブーツ）を有する。このような構造の場合、靴胴部10の上部分16は、紐部材28を用いる緊締具1とは別の緊締具19を備える。これに対して、紐部材18の2の線条部分18'は、該小舌状部材23の両側で内靴の開口部の両縁部に固定される方向転換部材20により足部上でかわるがわる交差する。この場合、該内靴の相対的な柔軟性を考慮に入れると、案内用の二重トンネル25は屈曲襞部26の区域まで下方へ向けて伸び出るのが好ましく、また半可撓性を有する管状靴部材27は用いない。もちろん、このようにして案出される靴の殻体（シェル）に、内靴の中央開口部や、足甲部13に到る足前部12を覆うことによるフランプおよび／または閉鎖手段を設けてもよい。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明による紐式緊締システムを備えた高胴型の靴であって、脚低部の箇所で靴胴部が閉じている状態を示す斜視図である。

【図2】 本発明による紐式緊締システムを備えた高胴型の靴であって、脚低部の箇所で靴胴部が開いている状態を示す斜視図である。

【図3】 図1および図2に示す、靴胴部の低部分に取り付ける準備ができた紐式緊締具の全体を示す正面図である。

【符号の説明】

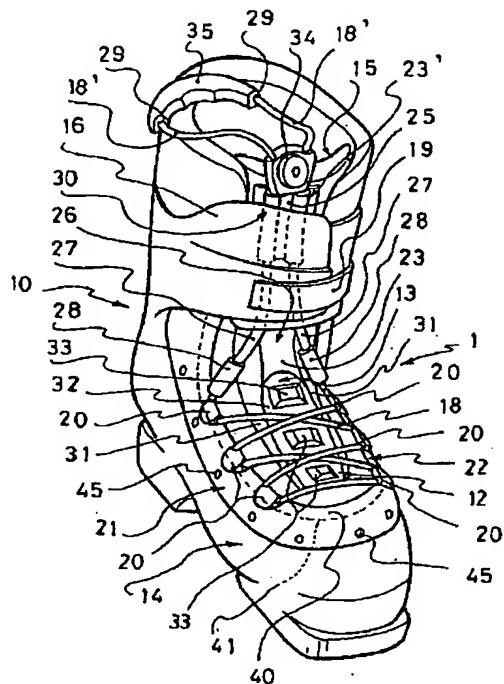
1、19	..	緊締具
10	..	靴胴部
12	..	足前部（爪先部）
13	..	足甲部
14	..	（靴の）低部分
15	..	脚低部
16	..	（靴の）上部分
18	..	紐部材
18'	..	（紐部材の）線条部分
20	..	方向転換手段
21、22	..	（靴胴部の）縁部
23	..	小舌状部材

9

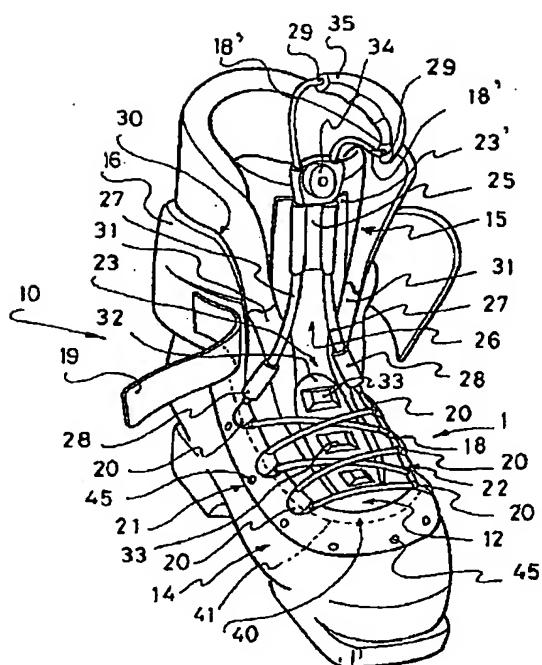
23 . . . (小舌状部材) 上部分
 25 . . . 案内用の硬質二重トンネル
 26 . . . 屈曲襞部
 27 . . . 半可撓性の管状鞘部材
 29 . . . (線条部分の) 自由端部
 31 . . . 密閉手段

32 . . . 快適性付与部材
 34 . . . 留め部材
 35 . . . 操作用把手
 40 . . . 可撓性を有する翼部 (ウィング)
 41 . . . 前方開口部

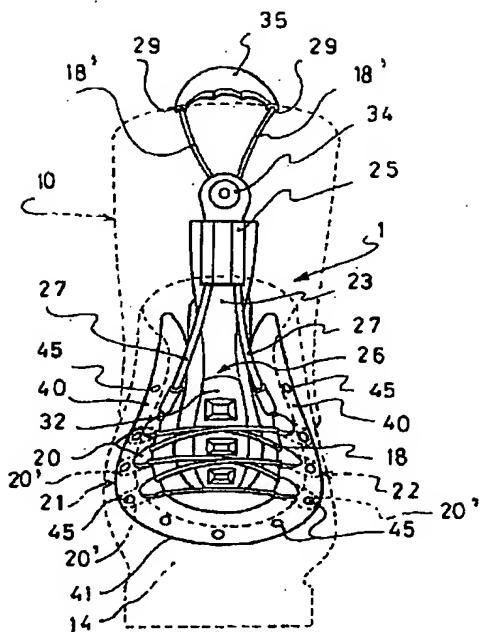
【図1】



【図2】



【図3】



フロントページの続き

(51) Int. Cl. 7

A 43 C 11/12

識別記号

F I

A 43 C 11/12

テマコート (参考)

(72) 発明者 ジャン-ブルノ ダネジン

フランス国. 74270 シリー, レ ヴェル
ネイ

(72) 発明者 ギュイ アザム

フランス国. 73100 エクス レ ベン,
ピュニイーシャテノ シエフ リュ, ラ
ドレイ